

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01705

研究課題名(和文) 内部労働市場と職業別労働市場に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study of Internal Labor Market and Occupational Labor Market

研究代表者

佐藤 厚 (Sato, Atsushi)

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：10388051

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、先行研究のレビューを試みた上で、イギリスとドイツのホワイトカラーを対象とした調査(Web調査)を実施した。主な事実発見として以下が指摘できる。

第1に、転職経験者割合については、大企業管理職の転職経験者は日本では少ないが、イギリスやドイツでは多かった。第2に、そのことが可能となる背景として、学校で学んだことが今の仕事に役立つという意味での教育の職業的意義(職業的レリバンス)がドイツやイギリスでは強かった。第3に、それとあわせて仕事が社会性(他社通用性)を持つために、公的もしくは社会的資格が必要となる度合いがドイツやイギリスでは強く、日本では弱かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ドイツやイギリスの管理職の仕事は、学校での教育内容と関連性があり(日本は関連性が弱い)。また業務遂行に際して職業資格が求められる割合も多い。このことは組織外部での職業教育訓練や学習が組織内部での職務遂行のための知識やスキルとの関連性が強いことを意味する。さらに日本の管理職の自律的キャリア意識はイギリスやドイツと比べて相対的に低い。

本研究の社会的意義は、今後日本には自律的キャリア意識の成熟と個別企業を超えた社会的職業能力の評価制度の構築の双方が求められること、つまりは企業目的と一旦離れて自立した個人が学習する場と学習成果を担保する評価の仕組みが必要となることを示した点にあるといえる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we attempted to review previous research and then conducted a survey (web survey) targeting white-collar workers in the UK and Germany.

The main findings are as follows. First, regarding the percentage of people who have changed jobs, the percentage of managers at large companies who have changed jobs is low in Japan but high in the UK and Germany. Second, the background that makes this possible is that the professional significance of education (professional relevance) in the sense that what you learn at school is useful in your current job is strong in Germany and the UK. Third, in addition to that, the degree to which public or social qualifications are required to give work a social character (transferability to other companies) is strong in Germany and the UK but weak in Japan.

研究分野：人的資源管理論

キーワード：ホワイトカラー キャリア形成 仕事と教育の関連 自律的キャリア意識

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は「内部労働市場と職業別労働市場に関する国際比較研究」(平成30年度～平成32年度 課題番号18K01807。以下「労働市場国際比較研究」と略)の成果をベースにより総合的な研究を試みる。「労働市場国際比較研究」では、これまで応募者が研究代表者として実施してきた「戦略的人的資源管理とキャリア形成・人材育成に関する研究」(基盤研究C 平成22年度～平成24年度 課題番号22530429。以下「人事管理とキャリア形成研究」と略)及び「キャリアプロセスに関する発展的分析」(基盤研究C 平成25年度～平成27年度 課題番号25380537。以下「キャリアプロセス研究」と略)の研究成果を活用して、内部労働市場と職業別労働市場に関する日英比較研究を試みることを主目的としていた。本研究では、労働市場システムに加えて職業教育訓練システムを枠組みに取り入れ、また対象国にこの趣旨に合致したドイツ等の国を含めることで、国際比較の視点からみた有意義な研究結果を期待することができる。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる研究目的は、日英独ホワイトカラーのキャリアに関する実証研究である。「労働市場国際比較研究」によると、大企業ホワイトカラーのキャリア形成プロセスに注目すると、イギリスの場合、教育の職業的意義が強く、学校での教育内容と今の仕事に関連性がある(日本は関連性が弱い)。また仕事に資格要件が求められる割合も多い(日本は少ない)。また公的・社会的資格の必要な理由として「今の仕事に不可欠の条件だから」が多い。このことは組織外部での職業教育訓練が組織内部での職務遂行のための知識やスキルとの関連性が強いという意味で職業別労働市場(OLM)に対応し、しかし他方で特定企業に定着し、職能特化型のキャリアを形成する管理職が存在するという意味では内部労働市場(ILM)とも対応しており、Rubery and Grimshaw(2003)のイギリスの類型と整合性がある(佐藤2019「ホワイトカラーのキャリアに関する日英比較研究」『生涯学習とキャリア形成』Vol16 No2)。「労働市場国際比較研究」から得られた「組織外部での職業教育訓練が組織内部での職務遂行のための知識やスキルとの関連性が強い」という結果は、労働市場システムと職業教育訓練システムとの間に(両者が補い合う)補完性があることを示唆する。しかしその考察は労働市場システムの分析だけでは十分とはいえない。そこで本研究では OLM が国レベルで普及しており、学校での理論学習と企業での実地訓練というデュアルシステムを中心とした職業教育訓練(Vocational Education and Training, VETと略)が確立したドイツを視野に入れつつ、日英独のホワイトカラーのキャリアに関する実証的な研究を試みることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究では、英独日のホワイトカラーのキャリア形成についての国際比較研究レビューを試みた上で、英独日のホワイトカラーを対象とした調査(Web調査:調査エリアは日本、ドイツ、イギリス。調査対象は各国のホワイトカラー従事者。目標最低サンプル数として各

国 700 人（計 2100 人）を設定）を実施し、その結果をまとめた

#### 4 . 研究成果

主な事実発見として以下が指摘できる。イギリスは、転職経験者比率が多く仕事と教育の関連性は中間、仕事経験の範囲は(勤続年数に占める最長職能経験年数比率では)中間(か実務経験パターンでは狭い)で昇進選抜時期は早く、自律的キャリア意識は高い、といえる。またドイツは、転職経験者比率が中間だが仕事と教育の関連性は強く、仕事経験の範囲は狭く、昇進選抜時期と自律的キャリア意識はイギリスと日本の中間、といえる。そして日本は、転職経験者比率が少なく、仕事と教育の関連性は弱い。仕事経験の範囲は勤続年数に占める最長職能経験年数比率でも実務経験パターンでも広く、昇進選抜時期は遅い。そして自律的キャリア意識は低いといえる。

以上を踏まえると、日本のホワイトカラーは、仕事と教育の関連付けが弱い下で、特定企業で幅広い仕事経験とゆっくりした昇進をベースとした長期的キャリア形成を行う、そして自律的キャリア意識は低いという特徴付けが可能である。これに対して、イギリスは、高い自律的キャリア意識を有したホワイトカラーが複数企業を経験しながら管理職に昇進していく。またドイツは、仕事と教育との関連付けが強い下で、特定の職業にそったキャリアを形成していく、という特徴付けがそれぞれ可能であろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤 厚	4. 巻 No.763
2. 論文標題 日本の野力開発・キャリア形成の特徴と課題－国際比較の視点から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤厚	4. 巻 Vol.19, No.2
2. 論文標題 企業コミュニティと人材育成：実証データによる英独日比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン	6. 最初と最後の頁 17 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤厚	4. 巻 Vol.20, No.1
2. 論文標題 日本企業の能力開発の現状と課題 職場管理職の能力開発支援を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン	6. 最初と最後の頁 101 - 120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤厚	4. 巻 Vol.19, No.1
2. 論文標題 ホワイトカラーのキャリア形成に関する英独日比較：大企業管理職を中心とした実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン	6. 最初と最後の頁 1 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤厚	4. 巻 Vol.18, No.2
2. 論文標題 職業教育訓練（VET）と労働市場との関係：日独比較を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン	6. 最初と最後の頁 43 - 64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤 厚
2. 発表標題 日本の能力開発とキャリア形成の特徴と課題－国際比較の視点から
3. 学会等名 労働政策研究会議
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐藤厚	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 244
3. 書名 日本の人材育成とキャリア形成：日英独比較	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------